事業　　NO.1　資料収集・選書

事業の内容

東久留米市立図書館資料収集方針に基づき、市民の調査研究、読書、生活や仕事上の課題解決に役立つ資料を収集する。また、役割を終えた資料の除籍を行う。

東久留米市に関する資料を積極的に収集保存する。

平成25年度の目標

中央図書館開架室の書架を増設し、資料の充実を図る。

中央図書館の選定に部門別選定を取り入れ、専門性を向上させる。

地区館は、各館の地域や利用者のニーズにあった資料を収集する。

活動指標

受入資料数	図書購入	一般書	１１，７７６冊	（24実績１０，１３３冊）
		児童書	４，１２０冊	（24実績　４，０８１冊）
	図書寄贈	一般書	２，３９５冊	（24実績　２，４２１冊）
		児童書	５８３冊	（24実績　３２５冊）
	視聴覚資料	ＣＤ	２４３点	（24実績　４３０点）
		ＤＶＤ	３８点	（24実績　８点）
除籍資料数	図書	一般書	１６，９０４冊	（24実績　７，６５９冊）
		児童書	７，６３７冊	（24実績　１，０９５冊）
	視聴覚資料	ＣＤ	１，０１３点	（24実績　３７点）
		カセット	１，１２９点	（24実績　３０点）
		ビデオ	１７６点	（24実績　５７点）
		ＤＶＤ	１６点	（24実績　６点）

選定会議の開催　一般書　毎週１回（全館から参加）

児童書　月２回（全館から参加）

部門別選定（４グループ各７回実施、中央図書館）

資料に対する利用者満足度（満足している利用者の割合）

中央図書館　７７％　　地区館　　６２％（３館平均）

特記すべき事業やできごと

滝山図書館の児童書基本図書の買い替え

中央図書館『川と湧水コーナー』設置にともなう関連資料の収集を開始

市役所や地域で配布する東久留米市に関する資料の収集

地区館の蔵書の減少（３館で－１３，３２９冊）

法令データベースの導入（紙ベースからの転換）

図書館の自己評価

資料購入（選書）の権限は中央図書館にあるが、地区館では指定管理者が地域ニーズに合わせた選書を行い、全館参加の選定会で購入資料を決定した。中央図書館の専門性向上と地区館の利便性向上をめざしたが、蔵書に対する満足度は、いずれの館でも高いとはいえず、ニーズ把握に課題を残した。中央図書館の書架増設を行ったが、あわせて各館開架室の整理に伴う除籍を行った結果、蔵書数は減少した。質・量両面での蔵書の充実のため、図書館全体で収容冊数増の必要に迫られている。今後は、資料保存の拡充、市民や有識者の意見を選書に取り入れる工夫、選書を担当する司書の能力向上に取り組みたい。

図書館協議会の意見

【評価について】

１．全館が参加する選定会議、専門性の向上をめざす部門別選定により、市民のニーズ把握と効果的な蔵書構築に努めたことは評価できる。

２．東久留米市に関する資料の積極的収集は評価でき、徐々に充実してきている。

３．ニーズに偏りすぎない選書も重要であり、そのためには選定担当者の講習や有識者の意見聴取などを行い、選書のレベルを維持する努力が必要である。

４．中央図書館と指定管理者の 2 本立てで運営していく上で基礎となる「選書基準」「除籍基準」の統一的な運用を望む。

【今後取り組んでほしいこと】

１．図書館運営の基本として、収集方針や選書に関する考え方をよりオープンにし、市民と情報を共有化するのがよい。

２．行政情報の提供や公文書管理について、中央図書館として積極的な働きかけがほしい。

３．歴史資料に加え、現在の東久留米市を特徴づけている事象－学校（小中高校や自由学園、クリスチャンアカデミー）や有力企業（コカコーラ、イオン等）などの資料を収集する方向性があるとよい。

４．ホールの転用などを検討し、蔵書の増加に対応できる施設整備を望む。

事業　NO.２　中央図書館のサービス

事業の内容

図書館事業全体の計画、事業進行、評価を所掌し、関連機関との調整を行う。
資料収集について統括する。図書館システムと書誌を管理する。
地域資料、レファレンス、相互貸借、専門機関連携等、図書館専門業務を行う。
ハンディキャップサービスの統括と人材育成を行う。
第二次子ども読書活動推進計画の策定及び進行の事務局を担う。
教育委員会総務課、指導室と協力して学校図書館整備を進める。
図書館協議会の運営、市民協働や運営情報提供を所掌する。

平成25年度の目標

中央図書館にふさわしい選書を行い、専門的なサービスを充実させる。
図書館システム更新にあわせ、利用点数の拡大、目録データの向上、自動化の推進、WEB発信の拡大、書架の増設等を行い、新たな利用者を獲得する。
生活や学習に役立つ資料・情報の収集とレファレンスを向上させ、市民の課題解決に役立つ図書館サービスを充実させる。

活動指標

中央図書館の登録者数	１２，１３６人　うち市民１０，６８７人	
中央図書館の貸出点数	３６２，２３７点	（24実績　３５３，２９８点）
レファレンス件数	９９０件	（24実績　８８１件）
予約件数（全館）	１１２，８５２件	（24実績　１４２，９１２件）
相互貸借件数（全館）	４，７２６点	
実施事業の参加者数	２，５９０人	（24実績　３，３１５人）

ハンディキャップサービス利用者
録音図書　２２人　　対面朗読　５人　　宅配　８人

利用者アンケート（「満足している」回答の割合）

・開館時間の延長	９６％	・資料の充実	７７％
・相談・案内	９５％	・窓口での対応	９７％
・自動貸出機・予約受取	９２％		

特記すべき事業やできごと

貸出点数の拡大、開館時間延長、学習室設置の常設化等、サービスを拡げた。
自動貸出機の導入、予約受取の自動化を開始した。
男女平等推進センターの蔵書のデータベース化に着手し、図書館での企画展示の場の提供等、さらに連携を進めた。
多文化コーナーを拡大設置した。
利用者用インターネット端末を設置し、有料データベースの利用や国会図書館

の配信事業の条件整備を進めた。

図書館の自己評価

自動貸出の導入により、窓口では利用者の読書や課題解決のサポートに職員の力をシフトさせつつある。テーマ展示やブックリストの発行等、読書案内に力を入れた。一方、地区館の指定管理者への移行、システムリプレイス、第二次子ども読書活動推進計画策定と大きな事業があり、レファレンスなど専門業務は、有料情報提供等新たな機能充実に取り組んだが進行途上である。選書の体制を強化し蔵書構成や保存の見直し等を行っている。資料の質的向上を徐々に進めていく。書誌を充実し検索機能の向上を図ったが、さらにホームページの利便性を向上させ情報発信を進めたい。

図書館全体の利用実績では、長期的な登録率の低下や利用の伸び悩みの傾向があるが、平成２５年度の利用点数は増加に転じ、館内閲覧者の増加も目立つ。サービス向上により利用者の高評価を得たものの、飛躍的な利用率の向上には至らず、新たな利用者獲得に引き続き取り組む必要がある。資料の充実に加え、市民の学習や交流の場としての図書館の役割を発展させていく。

図書館協議会の意見

【評価について】

１．市民の課題解決に役立つ図書館サービスに軸足を移しつつある点は、市民にとって有意義なサポートになると評価できる。

２．貸出点数の拡大、開館時間の延長、学習室の常設化、貸出手続きの自動化、図書館システムの改善などサービスの拡大・改善は評価できる。

３．ハンディキャップ部門はこの数年画期的に前進した。ハンディキャップサービス、多文化サービスの提供等、公共の役割を果たしている。

４．読書を奨める展示では、関心の高いテーマに加え図書館からの提案型の展示があり、読書センターとしての役割にこたえるものだ。

５．レファレンスや情報検索など、専門性の高い中央図書館のサービスを市民にアピールする必要がある。地区館から司書が結集して職員体制は向上したが、中央図書館の特徴が市民に伝わっていないのではないか。

【今後取り組んでほしいこと】

１．有料データベースのＰＲや利用法、医療・学習・ビジネス等で情報が得られるツールを示し、目的別の図書館利用法を周知してはどうか。課題解決型図書館としてさらに強化し、２０～４０代の利用を伸ばしてほしい。

２．文化活動のサポート、高齢者の生活文化、ボランティアの活動拠点としての役割、子ども読書の拠点としての役割を推進してほしい。

３．時間延長については評価できるが、地域特性や効率化にも配慮して検証する必要がある。

事業　　NO.３　地区館のサービス

事業の内容

平成 25 年度より（株）図書館流通センターが指定管理者として運営している。

各館図書館本来業務の資料提供事業を中心に、地域に密着したサービスを行う。

中央図書館と連絡を密にし、一体となった図書館サービスを行う。

地域の図書館として、地域センター、児童館、学校、地域の読書活動と連携して、生涯学習の拠点として読書活動や社会教育事業を行う。

平成 25 年度の目標

開館時間の延長や休館日を削減し、利用者の利便性を向上させる。

これまでのサービスを維持し、スムーズに運営の移行を行う。

地域のニーズ把握に努め、新たなサービスを提案し実施する。

利用者、ボランティアなど地域の市民と良好な関係を築く。

活動指標

地区館の登録者数　　１５，７６４人　うち市民１１，３８８人

地区館の貸出点数　　５１８，５２８点（24 実績　４９９，１７４点）

実施事業の参加者数　　４，４３３人

利用者満足度（「満足している」回答の割合）

・開館時間・開館日	１００％	・資料の充実	６２％
・相談業務	９５％	・接客態度	９８％
・本のさがしやすさ	８４％		

特記すべき事業やできごと

開館時間を延長（9 時～20 時）し、休館日を削減した。

館内の書架整頓、コーナー設置等環境整備を行った。

各館で企画した自主事業を行った。

ブックリストの作成やテーマ展示で読書普及を行った。

図書館の自己評価

図書館事業の核となる職員３８名の司書率は７９％、研修延べ参加者数３７４人で、窓口業務や図書館の専門性について、一定の質を確保できた。満足度調査の結果からみても利用者の支持を得ている。

これまでの地区館の事業に加え、地域に根差した新たな事業に取り組んでおり、読書に関する事業実施は好評であり評価できる。

選書については年度の目標を果した。資料提供事業については継続して安定したサービスを行った。今後は中央図書館と連携しながら、選書・除籍、レファレ

ンス、児童サービス等の専門性を向上させていく。

図書館協議会の意見

【評価について】

1．サービスや利用者の声かけなどに顕著な改善がみられる。若い母親の利用者が図書館員のアドバイスに安心して耳を傾ける姿を目にしたが、地域密着のよい姿と思う。

2．開館時間の延長をはじめ、新たな事業・サービスなど、指定管理者の力を借りて事業内容が進んでいることは評価できる。

3．資料充実の満足度が低いのは、スペースの都合で致し方ないのではないか。地区館にない図書を、市内の図書館や近隣市・都立図書館などから手配できることを広報し、案内・レファレンスを強化していくほかない。

【今後取り組んでほしいこと】

1．開館時間の延長は、職員の負担なく行えているのか。図書館の専門職員は司書資格は大切だが、もっと重要なのは経験値の蓄積である。職員が長く働ける取り組みを引き続き行ってほしい。

2．指定管理者の事業を評価できるとした上で、民間といっても図書館事業はすぐに効果を求められる小売業や飲食業とは異なり、選書・レファレンス・利用者サポートなど地道な図書館活動であり、５年間の事業を見通して、その充実を期待したい。

3．地域センターとの交流事業にも、さらに力を入れてほしい。

4．中央図書館と地区館の選書の違いを意識してはどうか。地区館は、さらに生活に身近な資料という基準で選書し、専門分野の基本書は中央図書館に置く方向などを検討してみてはどうか。

事業　　NO.４　東久留米に関する資料（地域資料）の収集と関連事業

事業の内容

東久留米市に関する資料（市の行政資料、地域の活動の記録や発行物、東久留米の町の歴史に関する資料等）を収集し、整備する。将来にわたり市の歴史として保存し、市民の生活、市内外の調査研究や市史編纂に生かす。

東久留米市に関する資料を中央図書館参考図書室・開架室、各地区館に配置し、貸し出しや閲覧サービスを行う。東久留米市に関する新聞記事の切り抜き（昭和50年から継続）を収集保存し、閲覧サービスを行う。

東久留米市に関する資料や情報を、展示、資料案内、ホームページ等様々な手法で市民に提供する。地域資料展を開催する。

平成25年度の目標

地域資料展を開催するとともに、展示コーナーで常設のテーマ展示を行う。

開架室の地域資料コーナー、参考図書室の地域資料書架を増設し、利用を促進する。

「川と湧水コーナー」を新たに設置する。

活動指標

地域資料の受入点数と蔵書数　受入点数　　５６５点(24実績　　４５９点)

蔵書数　　８，９７９点（24実績７，３５０点）

地域資料展の参加者数　　４０３人

（テーマ「東久留米の遺跡」　講演　井口直司郷土資料室学芸員）

新聞記事の切り抜き

中央図書館に業務を集約し、記事索引（平成22・24年分）を作成した。

特記すべき事業やできごと

東久留米にゆかりの「富士山」「湧水」「獅子舞」「農業」「遺跡」のテーマの地域資料の展示を行い、ブックリストを発行した。（新規・常設化）

「川と湧水コーナー」を新設した。

1階の地域資料コーナーを拡充し、参考図書室書架を増設整備した。

市民カメラマンが撮影した南沢獅子舞の写真展示、産業振興課の協力を得た農業展示、男女平等推進センターの企画展示の実施など、他機関や市民と連携した活動を行った。

図書館の自己評価

中央図書館に業務と司書を集中させたことにより、常設テーマ展示の新設、新聞記事索引の作成、パスファインダーの作成等、事業を充実した。書架の増設もあり、地域資料に対する市民の認知度を向上させた。

東久留米市の特徴ある資料群として「川と湧水」を編成し、「緑の基本計画」にある市民の活動や環境学習を支援する体制をスタートしたことは評価できる。

市役所での定期的な資料収集を行い、地域での催しに参加するなど、資料の増加と地域とのつながり強化され、同時に司書の能力向上が図られた。

図書館協議会の意見

【評価について】

1．湧水資料収集、「川と湧水コーナー」の設置は、東久留米を象徴する取り組みで、高く評価する。

2．行政資料を含む地域資料の積極的収集を評価する。新しく市民となった者にとって地域を愛する一助となる事業でもあり、地域資料収集は、選書・レファレンスと並び直営の中央図書館の大きな使命である。

3．図書館機能の質的向上が感じられ、教育の視点から素晴らしい取り組みであり、成果を上げていると評価できる。

4．東久留米市に関する資料の展示（市内在住作家古田足日氏の展示など）は良かった。東久留米市を舞台とする作品や、ゆかりの作家の作品を紹介する機会があると良い。

【今後取り組んでほしいこと】

1．収集した資料をホームページなどで紹介することも大事な取り組みである。資料の一部をホームページで展示するなど、市民にアピールし、取り組みを進めてほしい。

2．東久留米市に関する資料について、市民より古い写真や資料の寄贈を受けるなど、市民の関心と郷土意識を高める方法で行ってはどうか。

3．地域資料に関する講演の取り組みは貴重である。今後は、子どもたちに東久留米の昔を語る機会、戦争中の記録や聞き取りなどを企画するとよい。

4．湧水にまつわる言い伝えや郷土のことを子どもたちに伝えられる資料の収集を望む。語り伝えや古老のおはなし等の口承の資料の収集を期待したい。

事業　　NO.５　子ども読書活動

事業の内容

乳幼児から中学生までの子どもとその保護者をはじめ、教師・保育者・ボランティアなどに対し、広く子ども読書推進事業を行う。

市民の読書の目安となる蔵書を編成し、ブックリストや展示等を通して、よい本を紹介し、読書の楽しみを提供する。

おはなし会などを定例実施する。絵本展、子ども読書週間を実施する。

学校教育への資料提供や支援を行う。学校図書館整備について支援を行う。

平成 25 年度の目標

第二次子供読書活動推進計画を策定する。

基本図書の更新を行う。

学校図書館充実のための整備計画に従い、学校、指導室と連携した活動をする。

活動指標

０歳～１５歳の図書館登録率	２５．９％	
児童図書貸出冊数	２３４，３２６点	(24 実績　２１５，４７４点)
図書館主催事業参加者数	６，９４１人	(24 実績　５，５８５人)
児童図書受入点数	４，８５４点	(24 実績　４，４０６点)
学校向け団体貸出冊数	６，０３７冊	(24 実績　７，０４８冊)
市立図書館を利用した学校数	１６校	(24 実績　２３校)

特記すべき事業やできごと

第二次子ども読書活動推進計画を策定した。

学校図書館運営連絡協議会への参画と「学校図書館運営指針」の作成を行った。

「北欧を旅しよう」の講演会を中心とした連続企画の実施や新規事業の取り組みを行った。

図書館の自己評価

「第二次子ども読書活動推進計画」は、第一次計画の活動の実績と成果を受け、基本計画としての第一次計画を踏まえた具体的な読書推進を図る計画とした。策定作業を通じて学校や児童館等の関連施設との連携を強化できた。

学校司書配置により学校支援事業が進展し、主任学校司書とも交流を図った。学校、教育委員会事務局との連携した学校図書館充実の推進体制は評価できる。

中央図書館、地区館で、新規事業に取り組み、事業の参加者数が増加した。全館参加の選定会議や研修の共同実施を継続し、児童担当司書の専門性を高め、今後も子どもの本と読書について、質の高いサービスをすべての図書館で行っていく。

図書館協議会の意見

【評価について】

1．「第二次子ども読書活動推進計画」の策定は評価できる。親子の読み聞かせや親や大人への読書の普及・啓発を充実させる方針は大変評価できる。ハンディキャップのある子どもたちへの取り組みなどよい試みである。

2．中央図書館、地区館とも幼児向けの図書が充実し、イベントも随時行っている。幼児期の家庭での読書への働きかけが大事であり、更なる充実を望む。

3．学校、教育委員会事務局との連携による学校図書館充実の推進体制を整えたことは評価できる。学校図書館運営指針策定はおおいに評価でき、各校の学校図書館の充実に寄与している。

【今後取り組んでほしいこと】

1．子どもの読書活動は、ともすれば総花的なサービスになりがちな図書館事業の中で、最も重要な業務である。子ども中心の政策を打ち出している自治体には未来がある。図書館も同じで、子どもを重視する方針を堅持してほしい。

2．児童書の選書に際し、実際に子どもの読書活動に携わっているボランティアなどの意見も参考にし、幼児・児童・保護者の読書の道しるべになるような図書館を目指してほしい。

3．小学校中・高学年は、読書習慣が身に付く時期であることから、この年代向けの図書館の蔵書に厚みをもち、十分に対応してほしい。

4．学校、指導室と連携し、学校図書館の充実を進め、「本って楽しい」と思う子どもを一人でも多く増やしてほしい。